

鳴門市のコウノトリ

鳥類班 (日本野鳥の会 徳島県支部)

三宅 武*

要旨：絶滅したコウノトリの野生復帰が進められ、豊岡産コウノトリの鳴門市ハス田への飛来が続いている。2015年には鳴門市大麻町で造巢・交尾活動が、2016年には産卵・抱卵まで観察され、2017年には鳴門産コウノトリの誕生が期待される。コウノトリは飛翔力があり、将来的に大陸産野生個体との交雑により遺伝的多様性が維持されると期待される。野外繁殖が豊岡地方以外で成功することがコウノトリの野生復帰においてきわめて重要であり、鳴門市に大きな期待がかかっている。

キーワード：コウノトリ，地域活性化

1. はじめに

日本のコウノトリは1971年に野外絶滅となった(豊岡市資料, 2014)。兵庫県コウノトリの郷公園は旧ソ連から贈られた6羽を人工増殖させ、2005年に放鳥を開始し野外繁殖個体も徐々に増えきた。しかし、豊岡地方以外で定着繁殖が見られないことが問題となっている。一方、東アジアの大陸産野生コウノトリはアムール川中流域で繁殖し、越冬は揚子江中流にある南昌市ポウヤン湖付近に3000羽が生息、こちらは春秋に渡りをしている(IUCN, 2016)。



写真1 色足環付コウノトリ：2015. 1. 21, J0481 ♂, GPS付き 大津町段岡

2. 鳴門市における豊岡産コウノトリの動き

色足環(写真1)により豊岡産個体であることが識別されたのは次のとおりである。

2013年	♂ J0048, 062, 075, 082, ♀ J0073	5羽
2014年	♂ J0044, 057, 097, 481, ♀ J0084, 093	6羽
2015年	♂ J0086, ♀ J0041, 480	3羽
2016年	♂ J0083, 134, 135, ♀ J0501	4羽

2016年8月までに18羽が現れ、国内における鳴

門市の飛来数は注目される場所である。その半数は2回から7回と何度も鳴門市を出入りしており、現在は4歳以下の若鳥が大半となっている。豊岡産以外に2015年には野田産の♂ J0117 および大陸産野生種幼鳥1羽が記録された。

3. 繁殖行動(写真2)

1) 2015年5月6日より大麻町萩原の電柱にJ0044雄4才とJ0480雌2才のペアによる巣作り、

* 779-3233 名西郡石井町石井 958 - 4



写真2 繁殖写真：2015. 5. 17 ペア－(J0044♂, J0480♀)
大麻町萩原

交尾などの行動が見られたが、雌が未熟なため繁殖は失敗した。しかし、ペア－の絆を維持し非繁殖期も2羽での行動が多く見られた。

2) 2016年2月27日より、前年に形成されたペア－は2回目の繁殖行動に入った。テリトリー内の同じ電柱に巣を作り、交尾、産卵、抱卵と順調に進んだが、4月4日、突然に原因不明の巣上の争いを起こし、巣を空けた時にカラスに卵を食べられた。その卵殻から卵は無精卵であった事がわかった。その後、雌そして雄も巣を残して豊岡付近に移動してしまった。8月12日に雌が、9月11日に雄が大麻町萩原の巣に帰って来た。来年にはこの雌の年齢が繁殖適齢期の4才に達するため、このペア－の絆を信じて鳴門産コウノトリの誕生に期待している。

4. 飛翔力 (写真3)

コウノトリは飛翔力があり沖縄県から北海道さらには韓国までも広範囲に移動することができる(豊岡市資料, 2014)。何時どこに餌があるか、どこで繁殖しヒナを育てられるかの探索の旅になっている(江崎保男, 2015)。

鳴門市のハス田(300ha)と水田地帯は香川県のため池とともにコウノトリに格好のエサ場を提供している。四国に出入りする時、鳴門海峡から淡路島を経て豊岡へ行き来し、また和歌山から紀淡海峡経由で鳴門海峡に出入りする個体が観察され、鳴門の地はコウノトリにとっても重要交差点となっている(臼井恒夫, 2014)。



写真3 帆翔をするコウノトリ J0501♀：2015. 3. 22,
大麻町萩原

5. 遺伝的多様性 (写真4)

豊岡産の個体間での近親婚を防ぐため、野田市、越前市、韓国などの放鳥事業に期待が掛っている(江崎保男, 2015)。韓国では大陸産野生個体との交雑が期待され、我が国に新たな遺伝子を運ぶ中継地になるかもしれない。大陸産野生グループは、渡り時期の強い西風により日本にも飛来し、新たな遺伝子を運んでくる事が期待される。



写真4 野生種 幼鳥：2015. 2. 24, 大津町段関

「県下での大陸産野生個体の記録」

1969年2月6日 阿南市新野 1羽落鳥 足環付
(CCCP-968 ソビエト連邦) (支部目録, 1988)

1976年11月4日～1977年3月11日 鳴門市大麻町、大津町 ハス田 1羽 (支部目録, 1988)

1983年11月29日～1984年3月1日 海部郡海南町熟田 水田 1羽 (支部目録, 1988)

2004年1月17日～2月8日 板野郡上板町高瀬
吉野川潜水橋付近 1羽

2015年2月23日～25日 鳴門市大津町段関 ハ
ス田 幼鳥1羽 (三宅 武, 2015)

6. 保護・調査活動など

コウノトリの鳴門市定着においては素早い保護の
対策がとられ実を結んできた。

2015年5月11日 四国電力による営巣電柱の送電
停止工事

2015年5月21日 徳島県コウノトリ定着推進連絡
協議会 発足

2015年6月12日 ハス休耕田に餌場作り：協議会

2015年11月1日 鳴門コウノトリ保護区設定 (10
年間)

2016年3月17日 巣から400 mに保護啓蒙看板,
30枚設置：協議会

2016年3月17日～4月3日 産卵調査 (日の出～
日の入り)：協議会

その他, 随時に鳴門市を出入りするコウノトリの
情報共有：協議会

7. おわりに

コウノトリが野外絶滅から野生復帰に成功するか
否かが鳴門市での繁殖の成否にかかっていると言っ
て過言ではない。鳴門市市民だけにとどまらず広く
県民に愛され, やさしく見守られることが期待され
る。

参考文献

IUCN (2016) : The IUCN Red List of Threatened Species,

<http://www.iucnredlist.org/details/22697695/0>

三宅 武 (2015) : 『野生コウノトリ幼鳥飛ぶ』 鳴門市大津町段
関に現れる, 野鳥徳島, Vol.439, p2

支部目録 (1988) : 『徳島県鳥類目録1987』, 日本野鳥の会徳島
県支部, p34

豊岡市資料 (2014) : 『コウノトリ野生復帰のあしあと』 兵庫県
豊岡市監修発行, pp1-31

白井恒夫 (2014) : コウノトリ飛ぶ, 野鳥徳島, Vol.433, p5

Oriental Stork in Naruto City

MIYAKE Takeru*

* 958-4, Ishii, Ishii-cho, Myozaigun, Tokushima 779-3233, JAPAN

Proceedings of Awagakkai, No.61 (2017), pp.189-191.

